



ブラサトルと巡る！ さっぽろ歴史旅

文化財や当時の痕跡が見られる場所をブラサトルこと和田 哲さんと巡り、札幌の歴史や成り立ちを紹介します。

【第2回】

ななめ通り(東区)

MAP



詳細 広報課 ☎211-2036

碁盤の目を斜めに貫く道

市内中心部の北7条東2丁目付近から北東方向に斜めに走り、丘珠や篠路を経て石狩に通じる道道花畔札幌線は、「ななめ通り」とも呼ばれています。「道を碁盤の目のように整備した開拓使の都市計画よりも前にできた、元村街道とも呼ばれていた道なんですよ」と和田さん。

現在の北区や東区に当たる場所の大半は当時、ぬかるみがひどく、歩くのが難しい状態でした。その中で、かつての伏籠川(ふしかご)の自然堤防沿いを人が歩いていううちにできた道が歩きやすいことに幕臣の大友亀太郎(おともかめたろう)が目を付け、慶応2(1866)年に整備に着手しました。

▼和田さんと待ち合わせをした、ななめ通りの案内板。ななめ通りの歴史が学べる



和田 哲さん(ブラサトル)
札幌市出身。広告代理店や出版社勤務を経て、札幌や北海道の歴史と地理を解説する街歩き研究者として独立。講演やテレビ・ラジオ出演などのほか、YouTubeで動画を配信中。



▲碁盤の目状に整備された区画の中を、細い道路が斜めに走っている

大正9(1920)年に建てられた大覚寺の山門は、道内最大といわれていますよ

ぶらり歩いた取材風景を動画で公開！



タマネギをきっかけに栄えた一帯
農地として整備されていたななめ通りの一帯は、明治11(1878)年、札幌農学校の教師だったアメリカ人農学者がタマネギの栽培方法を伝え、収穫に成功したことをきっかけに発展しました。和田さんによると「ななめ通りは、日本で初めてタマネギが出荷された時に使われた道だといわれている」のだそう。生産されたタマネギは、道外にも販売され、ななめ通りはタマネギを積んだ馬車が行き交い、たくさんの飲食店や馬具店が軒を連ねてにぎわいました。現在も、細い道の両側にはいくつもの商店が店を構えているほか、市内では珍しい大きな山門がある大覚寺なども見られ、街並みの変化を楽しめます。